

第41回日本血液事業学会総会
総会長 入田和男

第41回日本血液事業学会総会会告(2)

第41回日本血液事業学会総会を下記のとおり開催いたします。会員の皆様には多数ご発表、ご参加いただきますようご案内申し上げます。

記

[会期]	2017年10月31日(火)・11月1日(水)・2日(木)
[会場]	福岡国際会議場
[テーマ]	「カイゼン」
[学会HP]	http://jbp41.com/

I. 特別講演

- (1) 博多ごりょんさん細腕繁盛記
- (2) 危機管理は人づくりから～東京ディズニーランドの挑戦～
- (3) 未来を開く改善活動
- (4) 国鉄からJR九州へ～赤字脱却の道のり～

II. 教育講演

- (1) “ピンチ”を“チャンス”に変えるクレーム対応術
- (2) 学会の血液製剤使用ガイドラインを読み解く
～血液センター職員として知っておきたいポイント～
- (3) 輸血感染症検査のコスト・ベネフィット
- (4) 改善活動と人材育成～クオリティコントロールの視点から～

III. シンポジウム

- (1) 危機管理体制のカイゼン
- (2) 直接抗グロブリン試験陽性赤血球製剤は輸血できるのか？
- (3) 品質システム導入による血液事業のカイゼン
- (4) かいいけつ！貧血～鉄不足を科学する～
- (5) 血液事業を支える献血者～若年層への献血構造改革～
- (6) 造血幹細胞移植における血液事業の役割

IV. ワークショップ

- (1) 製剤業務自動化設備を有効に活用するために
- (2) 医療機関への“顔”を磨く
- (3) ケチケチ大作戦！血液事業の節約マイスターたち
- (4) 部署間連携は採血課看護師から！

V. 特別企画

- (1) ファイト一発！ 献血サポーターの心意気
- (2) 本部長・副本部長大いに語る 血液事業 “ホップ！ステップ！ジャンプ！”
- (3) 改善課題本部長賞候補演題
- (4) ブロック血液センター所長推薦優秀演題

血液センター会員から演題登録された一般演題中、所属の血液センターで優秀と考えられる演題1題を各ブロック血液センター所長へ推薦していただき、各ブロック血液センター所長に自施設の優秀演題と併せて、それらの中から2～3演題を選考していただきます。その後、各ブロック血液センター所長から推薦された演題について、プログラム委員会でブロックごとに1題の優秀演題を決定させていただきます。

VI. 共催セミナー

学会期間中の昼の時間帯に、共催セミナーを開催します。

VII. 一般演題

口演発表またはポスター発表のいずれかといたします。なお、発表形式は変更させて頂く場合もありますのでご了承ください。

発表要項および発表日程はホームページでお知らせいたします。

- ・口演はPower Point (Windows版)によるPC発表のみといたします。発表時間は7分、討論3分を予定しています。
- ・ポスター発表は、ポスターを掲示したうえで、同会場内にてPower Point (Windows版)によるPC発表を行うことといたします。なお、掲示物前での発表及び質疑応答は行いません。発表時間は4分、討論2分を予定しています。

VIII. 発表演題の提出

- (1) ブロックセンター所長推薦演題、特別講演、特別教育講演、シンポジウムおよびワークショッピング報告の司会者並びに演者は、発言内容（演題名、所属、氏名）を含めて和文3,200字以内（図表、写真等は1点400字に換算）の発表論文を総会終了後、2週間以内に運営事務局まで提出してください。
- (2) 一般演題は予め発表論文を作成する必要はありませんが、一部の演題について総会終了後、機関誌「血液事業」編集委員長から論文としての投稿推薦を当該演者あてにお願いする場合があります。

IX. 関連行事

会員交見会

日時：2017年11月1日（水）18:30より

場所：福岡サンパレス

X. プログラム編集

下記の方々にプログラム委員をお願いいたしました。

入田 和男, 清水 博, 高松 純樹, 高本 澤, 田所 憲治,
椿 和央, 中島 一格, 中西 英夫, 藤村 吉博

(50音順、敬称・所属省略)

第41回日本血液事業学会総会 演題応募規程

1. 資 格

- 1) 筆頭演者は、日本血液事業学会会員に限ります。ただし、共同演者はこの限りではありません。
- 2) 演題は未発表のもので一演者一題とします。
- 3) 日本赤十字社血液事業研究として採択された研究課題について演題応募される場合は、一般演題として応募ください。

2. 演題登録

演題登録は、第41回日本血液事業学会総会ホームページより、UMINを使用して行ってください。

<http://jbp41.com/>

3. UMINによる登録

1) UMINによる登録

- (1) UMINオンライン演題登録システムでは、現在、Internet Explorer [Ver.6.0以上を推奨]、Safari [Ver.2.0.3(417.9.2)以降]、Firefox [すべてのバージョン]、Google Chrome [すべてのバージョン]以外のブラウザでは演題登録できません。演題登録には、Internet Explorer, Safari[Ver.2.0.3(417.9.2)以降], Firefox, Google Chromeにてお願いします。

2) 演題受付期間

申込み開始 平成29年4月17日(月)

申込み締切 平成29年6月30日(金)まで

3) 演題登録方法

- ・演題登録に際しては、演題申し込み画面の指示に従って、発表形式(一般演題のみ)・筆頭演者・共同演者・所属機関名・連絡先の電子メールアドレス(携帯電話のメールアドレスは不可)・演題名・抄録本文などの必要項目をすべて入力してください。なお、以下の字数制限を超えると登録ができませんのでご注意ください。

演題名：全角50文字以内

抄録本文：全角800文字以内

総文字数「演題名・抄録本文・演者名と所属(最大20名)」全角：1,200文字以内

全角文字は1字として、半角文字は1/2文字として数えます。アルファベットの直接入力は半角英数ですので1/2文字となります。<SUP>などのタグは文字数には換算しません。半角カタカナや丸文字・ローマ字・特殊文字等の機種依存文字は使用できません。文字化けや変形を避ける為、特殊文字・記号・鍵括弧については、登録用ページの注意事項を厳守してください。

演題登録後しばらくして、入力していただいた電子メールアドレス宛に登録番号、演題受領通知が送信されます。演題受領通知が届かない場合は、新規演題登録が完了していないか登録した電子メールアドレスに誤りがあった可能性がありますので、運営事務局まで電子メールでお問合せください。

・演題登録後も締切前であれば抄録等の訂正是可能ですが、その際には登録番号およびパスワードが必要です。演題登録時に必ず控えておいてください。

・締め切り直前の3~4日間はアクセスが集中し回線が大変込み合う為、演題登録に支障をきたすことが考えられますので、余裕を持って登録を行ってください。

- ・本文は口語体・常用漢字・新仮名づかい・ひらがな混じりとしてください。
- ・文中の英語・数字・単位については、「血液事業」の投稿規程に従ってください。
- ・本文は原則として、目標・方法・結果(または成績)・結論(または考察)の順に整理して記述するようお願いします。

(4) 暗号通信について

オンライン登録および修正は、原則として暗号通信の使用をお願いします。この暗号通信の使用により、第3者があなたのパスワードを盗聴して、演題・抄録を無断削除したり、改ざんしたりすることを防ぐことができます。従って、当学会では原則として暗号通信の使用を推奨します。暗号通信は登録または修正作業が終わるまで継続されます。

ただし、暗号通信が使えない場合(施設やプロバイダーの設定に問題があるか、ブラウザが古い)もありますので、その際は平文通信をご利用ください。平文通信においては、パスワード等の盗聴が可能ですから、セキュリティや個人情報の保護の点で危険です。特に病院情報システムや電子メール用に使用しているパスワードの使用は絶対に避けてください。被害が演題、抄録以外にも及ぶ可能性があります。平文通信をご利用の際は、こうした危険性を十分に考慮してください。

(5) パスワードについて

抄録を最初に登録するときに登録者本人に任意のパスワードを決めていただきます。演題登録番号、パスワードに関してのお問合せは一切応じられませんので必ずメモをとるなど保管するようにしてください。演題応募時の演題登録番号とこのパスワードを用いることにより、登録後の変更が何回でも可能です。修正・確認は修正確認画面により行ってください。

また、演題登録番号およびパスワードは登録演題のほか、受領確認等にも必要です。これらに関しては、セキュリティの関係から問合せには一切応じられません。

(6) 演題登録に関する問い合わせ先

演題登録に関する問い合わせは、運営事務局まで、E-mailにてご連絡ください。

第41回日本血液事業学会総会 運営事務局(株式会社日本旅行九州法人支店内)

E-mail : jbp41@nta.co.jp

4. カテゴリー区分

演題カテゴリー区分は以下のとおりとします。演題登録時には最低でもカテゴリーをひとつは指定してください。

なお、演題数等により発表区分が希望と異なる場合もあり得ますことを予めご了承ください。

大区分	小区分
S 複数部署に跨る改善	①血液センター内部部署間連携による改善 ②外部施設に跨る改善
A 献 血	①献血推進 ②広報 ③問診 ④接遇 ⑤登録 ⑥問合せ ⑦その他
B 採 血	①事前検査 ②全血採血 ③成分採血 ④危機管理 ⑤採血副作用 ⑥認定制度 ⑦その他
C 検 査	①ABO, Rh 血液型 ②その他の血液型 ③HLA ④血小板 ⑤細菌検査 ⑥検査サービス ⑦通知 ⑧その他
D 感染症検査	①HBV ②HCV ③HIV ④HTLV-I ⑤その他のウイルス検査 ⑥NAT ⑦通知 ⑧その他
E 製 剤	①赤血球製剤 ②血小板製剤 ③血漿製剤 ④設備・機器 ⑤その他
F 供給・需給管理	①保管・運搬 ②需給予測 ③需給調整 ④原料血漿 ⑤記録 ⑥危機管理 ⑦医療機関との連携 ⑧その他
G 学術・医薬情報	①輸血副作用 ②問合せ・苦情対応 ③医療機関との連携 ④中小医療機関対応 ⑤院内輸血療法委員会 ⑥合同輸血療法委員会 ⑦GVP ⑧その他
H 品質保証	①採血部門 ②品質部門 ③製造部門 ④販売部門
I IT化	①情報システム ②インターネット ③その他
J 技術協力	①自己血 ②依頼検査の対応 ③その他
K 造血幹細胞移植	①さい帯血バンク ②造血幹細胞提供支援業務 ③その他
L 管理運営	①危機管理・インシデントレポートシステム ②業務・財政 ③その他
M その他	①その他

5. 発表形式

口演発表またはポスター発表のいずれかといたします。なお、一般演題からワークショップ等に変更させていただく場合もありますのでご了承ください。口演はPower Point(Windows版)によるPC発表のみといたします。

ポスター発表は、ポスターを掲示したうえで、同会場内にてPower Point(Windows版)によるPC発表を行うことといたします。なお、掲示物前での発表及び質疑応答は行いません。

発表日程および発表要項は、後日ホームページでお知らせいたします。

6. 演題選定

- 1) 一般演題の採否および発表形式(口演／ポスター)につきましては、プログラム委員会に一任させていただきます。
- 2) 特別企画「ブロック血液センター所長推薦優秀演題」は、血液センター会員から演題登録された一般演題中、所属の血液センターで優秀と考えられる演題1題を各ブロック血液センター所長へ推薦していただき、各ブロック血液センター所長に自施設の優秀演題と併せて、それらの中から2～3演題を選考していただきます。その後、各ブロック血液センター所長から推薦された演題について、プログラム委員会でブロックごとに1題の優秀演題を決定させていただきます。

7. 発表演題の提出について

- 1) ブロックセンター所長推薦演題、特別講演、シンポジウムおよびワークショップ報告の司会者並びに演者は、発言内容(演題名、所属、氏名)を含めて和文3,200字以内(図表、写真等は1点400字に換算)の発表論文を総会終了後、2週間以内に総会事務局まで提出してください。
- 2) 一般演題は予め発表論文を作成する必要はありませんが、一部の演題について総会終了後、機関誌「血液事業」編集委員長から論文としての投稿推薦を当該演者あてにお願いする場合があります。

8. その他の注意事項

- 1) 所属機関名の統一をお願いします。
 - ・血液センターの役職名、部課名、出張所名は外す。
 - ・血液センター → ●●●赤十字血液センター
 - ・ブロック血液センター → 日本赤十字社●●●ブロック血液センター
 - ・血液事業本部 → 日本赤十字社血液事業本部
 - ・中央血液研究所 → 日本赤十字社血液事業本部中央血液研究所
- 2) 演者の漢字表記にご注意ください。
字体に間違いがないか、同一人物の表記にばらつきがないかをご確認ください。
特に注意すべき表記
齊, 齋, 齋, 齋
高, 高
崎, 崎
恵, 恵
(組織名、人名の表記にばらつきがあると、正しい索引が作成できなくなりますのでご注意ください)

目 次

第41回日本血液事業学会総会会告(2)	669
報告 血小板減損率低下への取り組み.....	野村奈都子ほか.....679
近畿ブロック血液センターにおける品質モニタリングの試み.....	中林 裕子ほか.....685
若年層献血推進のため岡山県学生献血推進連盟の協力を得て 実施した献血模擬体験イベント.....	水畠 太輔ほか.....691
PK7300で使用する ABO血液型ウラ検査用コントロールの検討 および運用上の問題点について.....	齋藤 智美ほか.....697
血小板原料の凝集塊発生要因と血小板活性化の関連性について.....	小田島千尋ほか.....703
血液緊急搬送の適正な要請への取り組み.....	中川 國利ほか.....709
第40回日本血液事業学会総会	
特別教育講演3	717
教育講演1	723
シンポジウム1	729
シンポジウム2	737
シンポジウム3	751
血液事業 Blood Programme 第39巻総目次	763

CONTENTS

An approach to reduce the incidence of impairment in the collection of apheresis platelets	Natsuko Nomura <i>et al.</i>	679
The trends of quality monitoring in Japanese Red Cross Kinki Block Blood Center	Yuko Nakabayashi <i>et al.</i>	685
Blood donation simulation events for young generation to familiarize blood donation in corporation with Student Union for Promoting Blood Donation	Daisuke Mizuhata <i>et al.</i>	691
A control sera for anti-A, anti-B test using PK7300 and problems at maintenance	Satomi Saito <i>et al.</i>	697
Analysis of the relationship between clump formation and platelet activation	Chihiro Odajima <i>et al.</i>	703
Approach of urgent blood supply on appropriate request promotion	Kunitoshi Nakagawa <i>et al.</i>	709